

2017マンツーマン推進 アンケート結果まとめ

組織面よい

- ほとんどの県でコミッショナー養成講習会が企画運営されている
- 多くの大会で可能な限りマンツーマンコミッショナーを配置して頂いている

プラス面

- ゾーン対策に時間を割く必要がない 指導の効率化
- 選手個々のレベルアップ、ファンダメンタルの定着化
- 選手一人一人頑張ることが明確になった
- 指導者が戦略にとらわれることが減り、1対1、技術向上を意識することが多くなった
- コミッショナーと審判がコミュニケーションをとり、さらにコミッショナーがベンチともコミュニケーションをとることであえて赤旗をあげずに選手に対して指導ができているケースが多く見られる 北海道
- モーションオートマティックなど工夫をするチームが増えてきた
- 大きな選手がゴール下だけでなく3ポイントラインまでディフェンスをしなけらばならなくなったので大きくて動けるオールラウンダーが増えている
- 立ったままになりがちだった長身選手に対するディフェンス指導の一助となっている 付随して有効なドライブが生かされる場面が増え、動きのある試合展開が起きている
- ルール導入に理解のあるチーム同士の試合はとても魅力的になった ミニ 新潟
- スクリーンプレーの技能向上とディフェンス力の向上 中学 新潟 福井
- 全員で攻撃し全員で守備をする意識のチームが増えてきた
- スペーシングを意識したオフェンスが展開されるようになってきた

2017マンツーマン推進 アンケート結果まとめ

組織課題

- 大会運営に人の数が足りず困難
- 旅費が必要となり運用困難
- 未登録チームへの指導ができない
- 方針の異なる指導をする指導者への対処方法
 - 規則作り
 - コーチライセンスとの連動など

現場課題

- ゾーンオフense・ディフェンスを知らない
 - コーチ、選手ともに
 - 高校以上でどのように影響があるのか知りたい
- 勝敗が旗で決まる場合がある
- アイソレーションオフenseが増えている
 - 一人の優秀な選手がボールを持つケースが多い
 - これはよいオフenseではない
 - 確率が高いオフenseではない
 - マンツーマンで普通に守ることを目指して欲しい
 - 指導者の考え方である
 - 勝利を目指すのであれば一人がボールを持ち個人プレーのみを許す姿勢もあり
 - ボールをシェアしながら良いショットセレクションを持ってショットに持ち込むバスケットボールを指導したらどうか
 - 1対1を強調する事はこの世代で重要
 - ショットセレクションを指導すべきである
 - ある意味では制限しすぎることでもない
 - スター選手がある意味で生まれる
- ミニバスの楽しむ理念から外れたプレー
 - アイソレーション
 - オフボールで動かない
- ゾーンを利用した戦術を考えることができないため、相手チームとの駆け引きでのおもしろさが薄まっている
 - 戦術工夫の選択肢が少なくなったことへの懸念
- ヘルプディフェンスをされにくい場所へ移動するだけというオフenseが展開され、オフボールオフenseプレイヤーの技術が向上されないケースがある
- ゴール下をずっと守り続ける選手がいる
 - ノーマークの選手ができあがる
 - オフenseはこれを有利に使うべき
- ドリブルが多くなり、チームでプレーする選手が減っているように思える
- 中学校チームは部活動の位置づけの中での活動であることを考えると、専門性の低い顧問が指導しているチームへの配慮やアプローチを考えるべきである
- 赤旗をあげる回数が少ない
 - 貴旗を振られた回数が多いチームが勝ち上がっている傾向にある
- 指導者
 - 指導者が勉強する幅が少なくなった
 - 明らかにゾーンディフェンスを教えているチームがある
 - コーチが県の役職に就いている場合がある
 - 勝利至上の指導者が完全に排除されたとは思えない
 - ミニにおいて指差しさえしていれば旗が上がらないという指導をしている指導者有り
 - 基準は分かっているけどもその方が勝てるという考えでマンツーマンを選手に指導していないケースがある
 - 分かっているが動けないから仕方がないなど指導者が教えることをあきらめてしまっているケースがある
- 選手
 - 選手は伸びていくのか
 - ずっとボールを持ち続ける選手が多くなった
- コミッショナー
 - 基準規則を判定するだけのジャッジマンとして存在している現状
 - マンツーマン推進の理念と指導的立場としての認識強化
 - 動かないプレイヤーに起因するディフェンスの基準規則違反
 - オフenseの指導が課題
 - ゲーム中にどのように改善、指導、注意するのか
 - マンツーマン推進
 - コミッショナーはゲーム中のオフense・ディフェンス両面において双方に平等に指導的立場として存在すべき
 - 読みの良すぎるディフェンスは罰しない
 - グレーゾーンが大きすぎてコミッショナーの共通理解を図ることが難しくなる
- 中学校レベルで「育成すること」と「勝つこと」の両立を選手にどのように指導し、指導者の方々に伝えていくべきか
- コミッショナーへのクレームがある
 - 審判員はオフィシャルに対してのクレームと同等に扱ってテクニカルファウルの対象であると認識して良い
- 旗が上がっても審判は試合を止めることができない
- コミッショナーの位置はTO側か、逆サイドか
- ミニでは
 - 3ポイントラインがないことと、アウトサイドショットの正確な選手が少ないということで
 - 大きい選手が制限区域を守り
 - 小さい選手はオフボールのダブルチームを多く行う
- スローインで能力のあるプレーをダブルチームで守っても良いと考える